



公務員によるヒグマ駆除、道内4市町村のみ 「ガバメントハンター」導入低調

会員限定記事

2024年3月18日 11:05(3月18日 14:29更新)

あとで読む



「スピード感を持ってクマに対応できる」。占冠村の山林近くで、自治体が自ら駆除に当たることの利点を語る同村の浦田剛さん（報道センター尹順平撮影）

ヒグマの市街地侵入が増える中、公務員が職務で駆除に当たる「ガバメントハンター」の導入を求める声が道内の捕獲現場で強まっている。多くの自治体は地元猟友会などに駆除を委ねているが、高い技術と知見を持つ熟練ハンターは高齢化で減少し、民間頼みのクマ対策は限界に達しつつある。ガバメントハンターを導入済みの自治体は既に迅速な駆除などで成果を挙げているが、道内では一部市町村の例外的な取り組みにとどまっているのが現状だ。

「養蜂箱がクマに壊された」。昨年10月4日午前6時ごろ、上川管内占冠村のガバメントハンター浦田剛さん（46）のもとに村内の養蜂家から通報があった。

出没現場の200メートル先には小中学校があり、1時間後には児童生徒の登校が始まる。浦田さんは即座に猟銃を積んだ車両で現場に向かった。

PI

道

一

ス

最

ス

に

札

す

駅

頑

ご

道

ア

1

2

クマの足跡などから通学路の安全を確認した後、地図上で周囲に住宅がなく銃を撃てるエリアを調査。すぐに問題個体の捜索を始め、同日夕には養蜂箱の近くに姿を現した成獣1頭を猟銃で駆除した。

「問題個体の駆除は時間がたつほど対応が難しくなるが、通報を受けた職員が直接現場に向かえるのでスピード感を持って対応できる。職員が出没現場を直接確認するので今後の対策にもつなげられる」。浦田さんは公務員が自ら駆除に当たる意義をそう強調する。



人里にヒグマが侵入した時の出動に備え、公用車に資材を積み込む占冠村の浦田剛さん（報道センター尹順平撮影）

北大在学時からクマの研究を続ける浦田さんは、13年に地域おこし協力隊として札幌から占冠村に移住した。16年に占冠村に鳥獣対策の専門職員として採用され、猟友会に頼り切りだった駆除を村職員として担うようになった。

同村では過去にクマによる人身事故は起きていないが、住宅地付近での出没が近年相次いでいる。浦田さんは村内の出没状況や遭遇の防ぎ方を伝える住民説明会を毎年開くなど、駆除に頼らない共生の方法を模索しており「住民の理解を得ながら地域全体で事故を防ぎたい」と話す。

道内ではこうした態勢を敷く自治体はほとんどない。道ヒグマ対策室が把握している限り、道内自治体で職員が職務としてクマの駆除を行っているのは、占冠村と岩見沢市、三笠市、空知管内沼田町の計4市町村のみという。

道にもクマの駆除に当たる職員はおらず、各振興局への駆除を担える人材の配置も「現場に一番近い市町村がハンターを確保すべきだ」（同室）として消極的だ。

道猟友会の会員は1990年度に9367人に上ったが、2022年度に5361人まで減少した。一方、90年度に5200頭だったヒグマの推定生息数は20年度に1万1700頭まで増え、駆除を猟友会に頼る地域ではハンターの負担増が深刻化している。

道猟友会千歳支部は30年前に100人以上いた支部会員が現在64人まで減った。このうちクマを猟銃捕獲できる熟練者は13人で、いずれも60～70代と高齢化が進む。

千歳市でも23年の出没件数は前年比13件増の53件に上った。住宅街やゴルフ場敷地への侵入もあり、坂井憲一支部長（74）は「ハンターは少なくなったのに出没が増え、猟友会だけで駆除を担うのは限界。行政がクマを撃つ態勢はつくれないのか」と訴える。

駆除の機会が増えたことで猟友会のハンターがクマに襲われるリスクも増しているが、自治体側に民間頼みの駆除態勢を改める動きは依然乏しい。

東京農工大の梶光一名誉教授（野生動物管理学）は「危険を伴うクマの駆除を民間ハンターのボランティア精神に頼るのは、事故が相次いでいる今の時代にはそぐわない」と指摘。ガバメントハンターの導入を進めるには、国や道が駆除を担う人材の配置や育成に関する具体的な構想を打ち出し、市町村に財政支援などを講じる必要があると訴えている。

<ことば>ガバメントハンター（公務員ハンター） 野生動物に関する専門知識を持ち、有害鳥獣の駆除や対策を職務として担う公務員。先進地の長野県小諸市では2011年度から採用を開始し、シカなどの駆除に当たっている。高い技術と知見を有する熟練ハンターの高齢化は全国的な課題で、都道府県や市町村によるハンターの養成や雇用の必要性は各地で指摘されている。

あわせて読みたい

ヒグマ生息数 抑制加速 環境省、絶滅危惧リスト除外へ 過剰捕獲に懸念

2024年2月19日 20:59



関連タグでまとめて読む

#自然 | 生きもの

#社会

#北海道新着

#主要ニュース

[トップに戻る](#)

関連記事

道内ハンターの不安拭えず
ハーフライフル銃規制強化
特例、詳細見えず

2024年3月1日 20:39



クマさんは友達？ 子へどう伝える
絵本作家や飼育員がアドバイス

2024年3月3日 5:00

